

審議会等の会議の記録

会議の名称	伊勢崎市環境審議会（第2回伊勢崎市環境審議会）
開催日時	令和7年2月28日（金）午前10時00分～午前11時30分
開催場所	清掃リサイクルセンター21 管理棟3階 大会議室
出席者氏名	（委員9名） 岡野委員、出井委員、松浦委員、江原委員、須永委員、中村委員、南雲委員 福元委員、池田委員、佐藤委員、亀井委員、大屋委員、高橋委員 ※欠席者：峯岸委員、塩島委員 （事務局6名） 深澤環境部長、塩島環境部副部長 環境政策課 小保方課長、奥石係長、斎藤主任、須田主事 G X推進課 桑名課長補佐(兼)係長、久保主査
傍聴人数	なし
会議の議題	（1） 第3次伊勢崎市環境基本計画（案）の諮問について （2） 第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について （3） その他
会議資料の内容	
会議における 議事の経過 及び発言の要旨	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議題 （1） <u>第3次伊勢崎市環境基本計画（案）の諮問について</u> ※事務局の説明について次のとおり質問があった。 委 員 p59「市民の取組」について、本市では毎月1回粗大ごみを回収しているが、毎月出す方はあまりいない。2ヶ月に1回であれば、回収コストの削減ができるとともに、市民に物を長く使う意識が生まれるのではないかと。 事務局 現在策定中の「伊勢崎市一般廃棄物ごみ処理基本計画」の中で、より細かく収集運搬に関する課題を分析、検討していくことになると思われる。 委 員 地球温暖化に伴い、産業構造を変えていく必要があるが、現在対応できていないことが問題となっている。二酸化炭素の削減に関する記載はあるものの、産業構造を変える必要性についての記載を検討する余地がある。例えば、海水温の上昇や生態系の変化により、伊勢海老や米などの産地が変わってきている。環境省でも地球温暖化への適応に関する取組について、広く普及啓発することを目的に「温暖化から日本を守る 適応への挑戦」といったパンフレットを出している。このようなアダプテーション（適応

会議の名称	伊勢崎市環境審議会（第2回伊勢崎市環境審議会）
	策）を進める視点もあると良い。 委 員 地球温暖化を抑制する施策と、地球温暖化による海産物や米の産地の変化に対応する施策の両方が必要である。 委 員 p. 48 以降に脱炭素社会に向けた施策が掲載されているが、産業構造の見直しの視点として、農林水産省が掲げている「みどりの食料システム戦略」の内容が参考となる。 委 員 家庭菜園にも影響がある。2050 年のさらに先の対策を進めていく必要がある。 委 員 生活レベルの「てまえどり」が盛り込まれているのは良い。 事務局 地球温暖化には適応策と緩和策の2つの策があり、そのうちの適応策の話をいただいた。環境基本計画は基本的なものを定める計画だが、適応策は範囲が広いため、今回は市民の取組で地球温暖化を抑える緩和策を扱う。いただいたご意見は来年度改定する「第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画」に反映する。また、遊休農地については農業に関連する部署と共有する。 委 員 p 16 気象について、8月の平均気温が 29.6℃と記載されているが、暑さが伝わりづらい。40℃以上を記録した日数など大きな数字を記載し、緊迫感があるような表現になると良い。 事務局 p 16 2段落目に「伊勢崎市が観測史上初の6月に 40℃を記録した」と記載し、暑さをアピールしている。 委 員 子供への環境教育を学校でも取り組んでいただけると良い。 会 長 他にご意見がないようなので、これで「第3次伊勢崎市環境基本計画(案)」についての協議を終了とする。 会 長 第3次伊勢崎市環境基本計画(案)に異議がなければ、本案で市長に答申を行うが、よろしいか。 委員一同 異議なし。 会 長 了承されたため、本案にて市長に答申を行うこととする。
	<u>（2）第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について</u> ※事務局の説明について次のとおり質問があった。 委 員 運輸部門の自動車の温室効果ガス排出量の算定は、群馬県（関東運輸局群馬運輸支局）の自動車保有台数の統計データに基づいているのか。 事務局 ご認識の通りである。 委 員 コロナ禍は活動が停滞したため二酸化炭素の排出が少なかった。その後の二酸化炭素を抑えなければならない。

会議の名称	伊勢崎市環境審議会（第2回伊勢崎市環境審議会）
	<u>（3）その他</u> 事務局説明：第3次伊勢崎市環境基本計画（案）は市長決裁を経て3月末に策定となる旨、環境審議会の委員の任期は3末日である旨を事務局より報告した。 委 員 施策を推進するために必要なことが見えてこないという現状がある。施策の推進の情報と、パブリックコメントでの意見について、どこまで検討していただけるのかを分かるようにしていただきたい。市民や事業者が取り組んでいくにあたっては、経済的な面で困難が伴う。遊休地への対策は市全体の問題でもあるため、協力する体制が必要である。助成金制度は逃してしまう人や知らない人もいるが例えば減税など、市全体で一律で実施できる施策ができれば全体にいきわたる。伊勢崎市役所の職員全員が一丸となって取り組める体制を作っていただきたい。 委 員 市民としての市民力、市民性を育てていかなければならない。 委 員 温室効果ガスの排出量の算定について、先日の利根川の河川敷で火災が起きたが、こういったところから排出されるガスも含まれているのか。 事務局 基本的に火災は含まれない。森林が燃えても二酸化炭素は排出していないと考える。草が燃えるときに二酸化炭素を排出するが、新たに生えてきた草がその二酸化炭素を吸収するため、プラスマイナスゼロとなる。人間が化石燃料やガソリンを活用することで排出する二酸化炭素を対象としている。 4. 閉会